

☆ 世 界

**綿 花** **低位の綿花価格が政府の介入を駆り立てる**

ICAC(国際綿花諮問委員会)によると、2013/14年の国際綿花価格(Cotlook A)は、平均ポンド当たり91セントと長期的な平均値である70セントを大きく上回った。しかし、綿花価格は現在急落していることから、2014/15年の平均価格はポンド当たり71セントとなる見込み。綿花価格が低位であること、高コストの状況から、綿花生産国の政府は綿作農家の保護政策を積極的に採っている。中国政府は内陸部の9省に対してトントン当たり2,000元の補助金を支払うことを明らかにした。インドは、過去数年シーズン実施していなかった最低価格保証システムを復活した。10月、パキスタン政府は40キロ当たり3,000ルピーの補助金を付与することを発表、パキスタン綿花取引公社は2005/06年度以来中止していた綿花の最低価格での備蓄購入を、約100万俵実施することを明らかにした。

2014/15年の世界の綿花生産は2,630万トントンとほぼ前年度並みの見込みである。インドは、モンスーンの影響でイールドは低下するものの、耕作面積が4%拡大することで相殺され、横ばいの680万トントンとなる見込み。中国は作付面積の縮小で7%減の650万トントンとなる見込み。米国では少雨の状況が緩和され、360万トントンに回復、パキスタンでは先月の洪水の影響は軽微で1%増の210万トントンとなる見込みである。

2014/15年の世界の綿花消費は2,440万トントンに増加する見込み。綿紡織メーカーは、綿花価格が低位にもかかわらず、さらに価格が下落する見通しから大規模な綿花の購買をするかどうか状況を見ている段階である。中国の綿花消費は約800万トントンの見込み。インドは530万トントン、パキスタンは230万トントンの見込みであるが、パキスタンについては紡織工場への安定的な電力供給が行われるかどうかポイントである。バングラデシュは95万トントン、ベトナムは70万トントンとなる見込み。

2014/15年の世界の綿花貿易は前年比11%減の790万トントンとなる見込み。中国政府が綿花輸入を制限していることで、前年比36%減の200万トントンとなる見込みであるが、中国以外の諸国は前年比8%増の590万トントン、特に南アジア、東南アジアでの輸入が拡大する見込みである。

世界の綿花需給見通し

(100 万ト)

	2012/13	2013/14	2014/15
生産	26.66	26.24	26.27
消費	23.58	23.46	24.45
輸入	9.66	8.76	7.86
輸出	10.17	8.86	7.86
期末在庫	17.10	19.77	21.60
価格*	88	91	74

Cotlook A インデックス(セント/ポンド)価格は、中国を除く世界の在庫率の見通し、中国の綿花輸入見通し等をもとに推計した。

## ☆ブルネイ

### 石油化学

#### 中国 Hengyi、石油精製工場の操業開始を延期

中国恒逸集団の子会社 Hengyi Industries Sdn Bhd は、Pulau Muara Besar (PMB) に建設中の石油精製工場(日産 16 万バレルの精製能力)の操業開始を、当初の予定から最低 1 年以上延期することを明らかにした。同社によると、設備の追加投資が必要となったため、当初 2017 年初めに操業開始の予定であったが、少なくとも 12 カ月の遅れが生じる見通し。

2014 年 1 月に同社が発表した資料によると、同地区では総合石油精製工場とアロマティクス・クラッカーからなり、完成後の主要 ベンゼン 50 万ト、重油 150 万ト、ガソリン 40 万ト、ジェット燃料 100 万ト、軽ナフサ 150 万ト等を計画している。

この事業はブルネイの政府機関であるブルネイ経済開発庁(BEDB)によるプロジェクトであり、同精製所が必要とする原油の 30%は政府を通じて Royal Dutch Shell から調達する予定であり、残る 70%のうち、30%をスポット市場から、40%を契約により購入する見通し。

また、ブルネイ政府はガソリンやジェット燃料、ガスオイルなど、精製所が生産する石油製品のうち 20%を買い取る予定。また、生産されたナフサは、大半が PX 工場自家消費される見通し。

中国恒逸集団は、浙江省 蕪山にある大手ポリエステルメーカーであり、盛集団との合弁による PTA 事業を行っている。

## ☆ド イ ツ

### **技術開発**

### **Kelheim Fibres、遠赤外線レーヨンを開発**

ドイツの大手レーヨン短繊維メーカーKelheim Fibres GmbHは、このほど遠赤外線レーヨン短繊維を開発したことを明らかにした。Kelheimによると、新たに開発されたレーヨン短繊維は、IR-reflecting particlesという遠赤外線放射微粒子を繊維中に練り込んでおり、人体からの熱放射を反射して人体に送り返す機能を持っており、人体の熱保持機能に優れているという。Kelheimでは、この熱保持機能に加えてレーヨン短繊維は、着心地の良さ、柔軟性、肌触りの良さ、といった特徴があり、こうした特徴を活かして機能性下着や機能性スポーツウェア等に展開していく計画である。スポーツウェア等においては、熱保持機能によるアスリートの血行改善、パフォーマンス向上、身体機能の早期回復などの効能が期待されるという。Kelheimは次のステップとして、同繊維に関するこの種の身体的、生理的なテストを行う計画を進めている。

以上